

2023年FIA-F4選手権シリーズ

HFDP参加選手レポート

第6大会（第11戦／第12戦） 参戦レポート

10月14日（土）～15日（日）、オートポリス・インターナショナルレースコース（大分県）で2023年FIA-F4選手権シリーズ第6大会（第11戦、第12戦）が開催されました。HFDP（ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト）からは#5 三井優介（2002年04月21日生まれ。21歳）、#6 野村勇斗（2005年11月12日生まれ。17歳）、#7 森山冬星（2003年1月10日生まれ。20歳）の3人が参戦しました。

三井、ランキング2番手で最終大会へ

■公式予選（20分間）：天候/曇り 路面/ウェット～ドライ



木～金曜のトレーニング走行はドライコンディションでしたが14日（土）は、早朝から小雨が降り公式予選開始時点ではほとんど止んではいたものの路面は一部濡れた状態でWET宣言が出される午前8時15分にA組セッションが始まり#7 森山が出走しました。ほとんどの出走車両はドライタイヤを装着してコースイン、各車入念にタイヤをウォームアップしてタイムアタックに入りましたが、早々に1台がコースオフしてセッションは赤旗で中断されました。

セッションが再開されると各車タイヤを温め直しタイムアタックを始めました。しかしまだコースの各所で水しぶきが上がるコンディションで、再びコースオフ車両がありセッションは赤旗中断となりました。この時点で#7 森山は1分58秒533がベストで5番手につけている状況でした。

セッションは午前8時32分、残り8分で再開されました。#7 森山は本格的なタイムアタックに入り、1分55秒079を記録して4番手に順位を上げ、そのままセッションを終えました。



B組の公式予選セッションは5分遅れの午前8時50分に始まり#5 三井と#6 野村が出走しました。雨はその後降らずコースは全域にわたってほぼドライコンディションとなり、各車慎重にタイヤをウォームアップしタイムアタックに入りました。4周目、ポイントリーダーの#5 三井が1分53秒293を記録してトップに立ち、#6 野村が1分53秒390でこれに続けました。このタイムは#36 小林利徠斗選手に逆転されましたが、#5 三井はさらにタイムアップを狙ってアタックを続けましたが、勢い余ってブリッジ先でコースオフしてしまいました。



この結果、セッションは8時58分に赤旗で中断されました。セッションは残り11分あまりで午前9時03分に再開されましたが、#5 三井は以降の走行はできず、ライバルたちがタイムを縮めていくのを眺めざるをえませんでした。B組セッションは、午前9時08分に再び赤旗で中断され、ここで打ち切られました。ベストタイムでは#5 三井は3番手、#6 野村が4番手につけましたが、セカンドベストタイムでは#6 野村が3番手につけたのに対し、赤旗以降の走行ができなかった#5 三井は自身のセカンドベスト

タイムだった1分53秒987が黄旗定時区間走行時のタイムとして抹消されたこともあり、15番手に終わりました。

この結果第11戦のスターティンググリッドは#5 三井が5番手、#6 野村が7番手、#7 森山が8番手、第12戦のスターティンググリッドは#6 野村が5番手、#7 森山が6番手、#5 三井が29番手と決まりました。

第11戦公式予選結果

予選A組4位 #7 森山 冬星 1分55秒079 (8番手スタート)
予選B組3位 #5 三井 優介 1分53秒293 (5番手スタート)
予選B組4位 #6 野村 勇斗 1分53秒390 (7番手スタート)

第12戦公式予選結果 (タイムアタックのセカンドタイム順に決定)

予選A組3位 #7 森山 冬星 1分55秒091 (6番手スタート)
予選B組4位 #6 野村 勇斗 1分53秒658 (5番手スタート)
予選B組15位 #5 三井 優介 1分58秒322 (29番手スタート)
#5 は、当該ラップタイム (1' 53.987) 不採用 (黄旗提示区間通過)

■第11戦決勝レース（13周）：天候/曇り



14日(土)、朝の雨は上がりシリーズ第11戦の決勝レースは曇り空の下、ドライコンディションで午後2時にスタートしました。スタート合図後、大きな順位変動はないまま各車第1コーナーへ飛び込みましたが、2番手の#81 ト部和久選手が1コーナー先でアウト側へラインを外れて後退、#5 三井は4番手、#6 野村は6番手、#7 森山は7番手でオープニングラップを終えました。

4番手の#5 三井はペースが良く、3番手の選手に迫りますが、2周目に後方集団で接触事故が発生したためセーフティーカー(SC)が介入しました。セーフティーカーは5周終了時に退去、6周目からレースが再開しました。#5 三井は前を走る#38 奥本隼士選手に迫り1コーナーアウト側からクロスラインを取って2コーナーでオーバーテイクし3番手へ進出すると、勢いに乗って7周目、ファステストラップを記録しながらさらに2番手の#35 中村仁選手に迫りました。

しかしコンマ5秒差のテールトゥノーズに持ち込みながらオーバーテイクの難しいオートポリスではなかなか順位を入れ替えることができず、トップの#36 小林選手が独走状態になってしまいました。その後#5 三井は何度か#38 奥本選手に並びかかりましたが前へ出ることはできず、結局3位でチェッカーフラッグを受けることとなりました。



【FIA-F4選手権シリーズ第11戦・レース結果】

#5 三井 優介 決勝3位 (28分03秒002 ベストタイム 1分53秒352)
#6 野村 勇斗 決勝6位 (28分06秒948 ベストタイム 1分53秒858)
#7 森山 冬星 決勝7位 (28分07秒994 ベストタイム 1分53秒829)
レース中ファステストラップ #5 三井 優介 1分53秒352 7周目

■第12戦決勝レース（13周）：天候/曇り



15日（日）午前8時30分、前日に引き続き空には雲が広がり、気温は低いながらドライコンディションでシリーズ第12戦決勝レースが始まりました。スターティンググリッド5番手に#6 野村、6番手に#7 森山がつけましたが、#5 三井は公式予選で赤旗原因を作って途中で周回を打ち切ったことに加え、セカンドベストタイムがペナルティにより抹消されたため、29番手からスタートすることになりました。

スタートの瞬間、#6 野村がうまく加速し1コーナーから2コーナーで前を走る#36 小林選手をオーバーテイクして4番手に進出しましたが、第2ヘアピンの進入では#36 小林選手にインを取られて逆転を許し、5番手にポジションを戻しました。その背後には#7 森山が続きました。

一方29番手からスタートした#5 三井はスタートが切られると猛然と追い上げを始めオープニングラップのうちに19番手、2周目に16番手と周回毎に順位を上げ、6周目には12番手に進出しました。

5番手の#6 野村、6番手の#7 森山はペースが上がらず3周目の1コーナーで#12 洞地遼大選手が#7 森山をオーバーテイク、4周目には同じ1コーナーで#6 野村に追いついて順位を入れ替えたため、#6 野村は6番手、#7 森山は7番手へ後退しました。



8周目の第2ヘアピンで#45 大宮賢人選手がコースオフしたため、#5 三井の順位は11番手に繰り上がりましたが、その後コースオフ車両を回収するためセーフティーカーが介入しました。セーフティーカーは10周終了時点で退去、11周目からレースが再開されました。



ところがリスタート時ストレート上で接触事故があり、レースは赤旗で中断され、そのまま打ち切られて、順位は規則に従って赤旗提示前全車がコントロールラインを通過した9周終了時のポジションで決まりました。ただし赤旗の原因となった選手には40秒加算のペナルティが下されたため、上位の順位は繰り上がり、#6 野村は5位、#7 森山は6位、#5 三井は10位でレースを終えそれぞれシリーズポイントを獲得しました。

#5 三井はシリーズポイントの1点を加算しましたが、#36 小林選手が第11戦、第12戦でポイントを加算したため、2点差でランキング2番手に後退して最終大会を迎えることになりました。ランキング4番手となった#6 野村までがシリーズチャンピオンの可能性を残しています。

【FIA-F4選手権シリーズ第12戦・レース結果】

#6 野村 勇斗 決勝5位（18分12秒366 ベストタイム 1分54秒083）
#7 森山 冬星 決勝6位（18分12秒853 ベストタイム 1分53秒877）
#5 三井 優介 決勝2位（18分15秒927 ベストタイム 1分53秒817）
赤旗提示をもって9周完了時の順位で正式結果を決定

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2023 シーズン第12戦終了時点)

2番手 #5 三井 優介 176点

4番手 #6 野村 勇斗 157点

5番手 #7 森山 冬星 101点

(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点)

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2023 シーズン第12戦終了時点)

2番手 HFDP 221点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント : #5 HFDP RACING 三井 優介



予選では自分がミスをしてしまいました。クルマの状態は良かったですし、自分としても得意な路面でした。でもブリッジ手前の、右コーナーで良い感じに加速したら、右リアが縁石に少しだけ引っかかって、そこが濡れていてスピンしてしまいました。あのラップがまとめられていたら良いタイムが出ていたはずなんですけど、自分の凡ミスでグリッドを落としてしまいました。

ただただ反省するばかりです。

第11戦では、翌日のレースが29番スタートと決まっていたので、ここしかチャンスがないからとにかくプッシュして最大限のポイントを獲ろうと思いました。走り始めからクルマのバランスがすごく良く、積極的に前を攻められましたし、SCやスタート直後のアクシデントなど全部のチャンスを活かして3位に上げられました。2番手を狙うチャンスもありましたが、相手もうまくて押さえられてしまいました。29番スタートの第12戦では、2018年の第11戦で角田裕毅選手が最後尾スタートから8位まで追いつけたレースを見ていたので、僕もそれをやろうと思ってレース前にひたすら18年の動画を見て、角田選手がどういうふうに乗っていたのかを研究しました。スタートしたらジェントルマンの皆さんが結構譲ってくれましたし、特に危ない目に遭わずに追いつけることができ、勢いは見せることができたのかなと思います。本当はあと2、3周で、あと2ポジションくらい上げられたと思うんですけど、赤旗で終わってしまって残念です。でも10位で、貴重な1ポイントを持ち帰ることができたのは、良かったのかなと思っています。この1ポイントは、ほんとに大きいと思います。



●ドライバーズコメント : #6 HFDP RACING 野村 勇斗



オートポリスの走行経験もなく今回初めて走りましたが、練習では割と良かったので、予選を決めれば1位も行けるかもと思ったんですけど、予選で雨寄りのセットにしたらスピードが足りませんでした。第11戦では7番手スタートから表彰台を目標にしてスタートしたら、序盤から若干ペースが苦しい状況でした。スタートで1つポジションを上げ、その後SCが入った時にもう1つポジションを上げるチャンスがありましたが、うまく押さえられてしまい、そこからはタイヤも厳しくなって抜けずに終わってしまいました。第12戦では、第11戦よりも良いスタートで1つ順位上げましたが、最初の周から根本的なグリップが感じられなくてペースが上がらず、すぐに抜き返されてしまいました。そこからペースが上がらず、後の選手



にも行かれてしまって非常に苦しい展開になりました。どうして遅かったのかを次のもてぎまでに改善してまた頑張ります。

●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 森山 冬星



今週は確かに練習からあまり調子が良くなかったんですが、なぜか予選ではそれ以上にタイムが伸びませんでした。雨寄りのセットに走りをアジャストできなかったせいかもしれません。第11戦では、抜きにくいコースだと言われていますが、いつも通りアグレッシブに行って抜ける場所ではしっかり抜いて表彰台を目指そうと思っていました。スタートは悪くなく

、1コーナーで野村選手に並べたんですが、ホイールがわずかにロックしたため抜けませんでした。ただ、練習の時からずっと僕より速かった野村選手にレースではついていけたので良かったと思います。第12戦はスタートがうまく決まった後、小林選手が真ん中で野村選手がアウト側に並んで1コーナーへ向かってインが開いていたので一瞬そこに飛び込もうかなと思ったんですが、さすがにあそこで3台並んだら当たっちゃうなと思って引きました。ただ、その後はペースが上がらず苦しい走りになって順位を落としてしまいました。なぜこういう状態になったのか、チームと話し合っ改善して、もてぎで結果を出せるように頑張ります。

